

活動日誌

2016年7月～2016年9月

* 全体行事

夏のダリア祭 7/1(金)

* ダリアの郷支援センター

全体ミーティング 7/19(火) 8/9(火) 9/13(火)

卓球レク (毎週金曜日) 7/15.22.15、8/5.12.19.26、9/2.9.16.23.30

ボールペン習字 7/7(木)、7/21(木)、8/4(木)、8/18(木)、9/1(木)、9/15(木)

読み書き勉強会 7/25(月)、8/29(月)、9/26(月)

パソコン開放日 7/4.8.11.15.22.25、8/1.5.8.12.19.22.26.29、9/2.5.9.16.23.26.30

外出レク 7/4.7.8.11.14.15.21.22.25.28、8/1.4.5.8.12.18.19.22.25.26.29
9/1.2.5.8.9.15.16.23.26.29.30

花の詩画展見学 7/12(火)

昭和のカラオケ 7/26(火)

喫茶のつどい 6/21(火)

手話練習 (ダリア・HAPPY 合同) 9/6(火)

農試公園レク 9/27(火)

* 共同作業所HAPPY

- ・手稲区役所バザー 7/13(水)～7/15(金)、8/8(月)～9(火)、9/20(火)～21(水)
- ・精神3級交通費助成(サピカ)説明会 8/22(月)

* グループホーム

サポートセンター「和」定期点検 7/22(金)、8/31(水)、9/23(金)

【若根荘】 誕生会 7/15(金)、食事会 8/17(水)・9/23(金)

【マゼル】 坂ビスケット「レトロスペース」見学会 7/22(金)、「海を味わう出前の日」 7/29(金)
誕生会 8/19(金)

【結】 暑気払い夕食会 7/19(金)、堀さん歓迎会 7/22(金)

【ひなた】 「海を味わう出前の日」 7/29(金)、誕生会 8/19(金)

【ぼぷら】

* 会議・学習会

- ・支援する会初任者研修 8/31(水)～11/30(水)の間に、9回に渡り実施予定
- ・きょうされん全道大会 9/11(日)～9/12(月)
- ・北海道母親大会 9/25(日)

* 関係機関主催行事

- ・道回連総会 7/31(日) ・運賃割引街頭署名 8/6(日)
- ・生活保護を良くする会総会、学習会 8/20(土)
- ・新人間裁判第8回口頭弁論 9/14(水)



新車両を頂いたお礼に、支援する会から感謝状を贈り、細川専務理事作詩の構成詩「ありがとう ありがとう」をメンバー有志が朗読しました。

『ありがとう
ありがとう』

さわやかな初夏の風吹く6月に
ぼくらは

この地、八軒に やって来た
ちょうど二〇年前だった

古ぼけた民家の一階
すし詰めの中で みんな丸くなって
ロックデコの金具を挿していた
、、、「ぼくもできるかなあ」

いつの間にか 僕も座って

新しい人に教えている

ありがとう
ありがとう

古めかしいアパートの前で
体をすぼめて 待っててくれた
車から降ろされた荷物を

黙って二階に運んでいく

そこはら置間
「みんなと馴染んでいけるだろうか」

気が付いたら

今も暮らしているよ

ありがとう

ありがとう

赤い羽根共同募金会より 新車両が贈呈されました。



赤い羽根共同募金会より申請していた車両が決定し、助成金が頂けることになりました。新車両は北海道レバンガさんと合わせた、助成金です。9月20日の新車両贈呈式には、レバンガ北海道の野口大介選手が出席してくれました。皆大喜びです。

住むところがなく
大通公園が僕のねぐら
雪がちらつき 手が氷る

「暖かい家で暮らしてみませんか」

声をかけたボランティア
一緒に考えてくれる人
やっと見つけた 僕の住家

あったかい
ありがとう
ありがとう

「大きな建物建てるね」と
傾いた住居壊してしまひ

びっくり
びっくり
鉄骨建つのを

まいにち 毎日みていたら
ほんとにびっくり
みんなのカンパで 会館建った
ありがとう
ありがとう

赤い羽根 赤い羽根

幸せ運ぶ 赤い羽根

だから僕らも 声出して
共同募金を呼びかけた
毎年 まいとし 声出した
ありがとう
ありがとう

高く 高く 飛んだ
とんだ 大きな 大きなボール

ぴかぴか光る車の車輪
僕らの夢を乗せながら
運んでくれる大きな力

レバンガ
がんばれ
がんばれ

レバンガ

そしてほんとに
ありがとう
ありがとう

ありがとう
ありがとう



『支援する会の事業紹介!』

支援する会は、『家族の様に生きよう』を理念に、一人ぼっちの障害者をなくし、障害者が地域で当たり前暮らしできるように生活支援活動しています。

グループホーム(共同生活援助事業)

【支援する会が運営する5つのグループホーム】

女性専用→「若根荘」、「マザーハウスぽぷら」の2ヶ所
男性専用→「マゼル」「グループハウス結」「ひなた」の3ヶ所
2015年からサテライト型(一人用)も開設し、現在入居者は全体で30名です。
地域にある住宅(アパート、一戸建て等)を利用し、
日常生活支援をする世話人1名と、食事提供をする世話人1名がおり、
障害による何等かの事情で『一人暮らし』が難しく
生活訓練の必要な人たちが利用しています。

【平日の日中の過ごし方】

作業所や、支援センターなどで過ごし、
帰宅後は、食事・洗濯・外出・入浴・談話などして過ごしますが、
土日、祝日は一日の過ごし方を自分で考えます。

入居者は、食堂・お風呂・洗面所・トイレなどを共同で利用し
お互いに協力し譲り合っています。

共同生活の中での意見や不満、生活の不備、備品の補充、今後の受診や外出、週末の予定などは、
週1回のミーティングの話し合いで確認や報告修正をしています。

【ひとり暮らしに向けて】

各自の立てた「目標」の達成状況から、個人の成長に沿って一軒家型グループホーム(集団生活)から、アパート式の二人暮らし、そしてサテライト型のひとり暮らしから自立生活へと移行する形態は、理想的なグループホームではないかと自負しています。(スタッフ:板谷幹男)

ダリアの郷支援センター(地域活動支援センター)

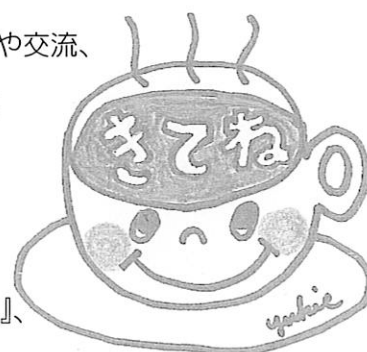
ダリアの郷支援センターは、
ゆったりとおしゃべりをしながら仲間作りや交流、
そしていつでも気軽に立ち寄れる場所を
目指して運営しています。

【利用できるサービス】

生活相談・食事の提供や、
服薬・金銭管理などの『生活支援サービス』、
仲間とおしゃべりしたり、ごろ寝をしたり、
自由に過ごせる『オープンスペースの解放』などを行っています。
『全体ミーティング』やパソコン、カラオケ、ボウリングレクなど、
参加者の希望を取り入れたグループプログラムを実施しています。

【メンバーの変化】

「表情が良くなった」と家族に褒められたり、
「花を育てたい」と園芸クラブを立ち上げたり、
家で引きこもりがちだった人が昼・夕食を食べに来るようになったり、
うれしい変化が見られています。
年齢も障害も様々なメンバーさんが通所してきますが、
皆で仲良く過ごしています。(スタッフ:織田陽子)



共同作業所・HAPPY(就労支援B型事業)

HAPPYは現在、
知的障害、精神障害をかかえる26名が通所しています。

【作業内容】

デコレーションケーキをのせる底板作り、
古紙回収袋の折り作業、
ポスティングの外注作業、
廃油石けん作り、
トートバック・巾着袋など手芸品制作など幅広く、
メンバーが好きな事、得意な事を選び行っています。
マイペースでコツコツ取り組む人、
積極的に色々な作業に参加する人と様々ですが、
急な注文が入ったときには一気に集中モード!
チームワークを発揮します。
毎週金曜日のミーティングは
リラックスできるよう、
ドリップコーヒーやお菓子を食べながら行っています。

【互助会活動】

3年前に立ち上げた互助会も活発になり、
買い出しや物品の在庫管理など係が行っています。
活動の場を、道回連や、きょうされん、新人間裁判など
外にも広げています。(スタッフ:曾我理絵)

支援する会の活動紹介

・平和を守る
運動に参加



・福祉バザーの開催



・赤い羽根共同募金活動

・『新・人間裁判』への参加



きょうされん北海道支部 2016全道大会inさっぽろ

私たち「支援する会」はきょうされんに加盟して、障害者の人間らしい生き方を求めています。

9/11(日)・12(月)に札幌市で開催された「きょうされん全道大会」に、支援する会はメンバーとスタッフ、39名が参加しました。きょうされん常任理事の藤井克徳氏の講演やシンポジウムで、運動の大切さを学び、アサヒビール園では全道の仲間と交流しました。

来年の『きょうされん第40回全国大会 in 北海道』に向け、支援する会も奮闘します！

テーマソング
『つなげよう時計台の街から』



※テーマソングのCDの売上は、来年の全国大会in北海道の資金になります。



シンポジウムにて
『新・人間裁判』原告メンバーが、
裁判をアピール！



利用者部会にて。
得意の絵で、
自己紹介！



閉会式にて。
玉子マラカスと
ドラムのセッション！



閉会式にて。
ドラムサークルの発表



利用者部会で作成した、横断幕を披露。



作業所販売コーナー。
HAPPY も出店しました。





明日へつなぐ希望求めて

— 支援する会物語 (第二回) —

細川久美子

<共同住居の立ち上げを決意>

自治体が補助金を出してくれると言うし、みんなの要求であるならそれを実現するのも「障道協の役割」であると思っていたので、三浦誠一さん(現在の理事長)に話を持ちかけたところ、「そんな簡単にできるものではない、先立つ金が無ければならないし、人手もいる」とにべもなく断られてしまったことなど無視して、「障害者の家づくり」に全力を注いだことが今でも忘れられません。こうして支援する会を立ち上げて今年で20年目を迎えています。

当時札幌市の単独事業として精神障害者が退院し、地域社会で暮らすための社会復帰事業として「共同住居事業」というのがあり、この事業を利用しての第1号が「若樹荘」でした。

この「若樹荘」は、当事者をはじめ、病院のワーカーや地域の支援者たちが係わってできた男性専用の共同住居でした。その後病院が係わってできたグループホームは何か所かあったようですが、地域の中で暮らすという共同住居はなかったように思っています。

また、札幌市の補助金は支給されるものの、実績が6か月程度なければならず、また補助金額も決して多くなく、そこに係わって支援していくスタッフの給料ひとり分にも満たない額だったために広がりができないこともあったと思っています。

<国際障害者年と障道協の結成>

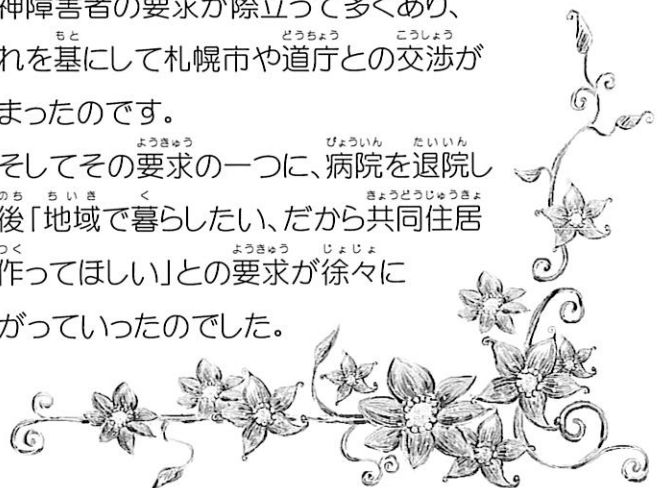
それでもそのような時代の中で、国際障害者年が果たした意義はとても大きいものだったと

思います。

1981年に国際障害者年が精神障害者の「地域の中で暮らしたい」と願う人たちの声をとり上げて、北海道精神保健センターで黒田先生をはじめ、安達先生などが係わって、社会復帰学級を立ち上げ、その学級の生徒だった横式多美子(現山崎)さんら4人の精神障害者で作ったのが社会復帰回復者「すみれ会」に結集する会員が糸を結ぶように次々と増えていく動きや、今まで隠れていた精神障害者の生活相談が多く寄せられるなどの中で、私たちの関わりが大きく広がって行ったのです。

そして1982年に「障害者の生活と権利を守る全国連絡会」(障全協)に加盟する北海道の会「障害者の生活と権利を守る北海道連絡協議会」(障道協)が結成されたのでした。大通公園で開かれた集会にはマスコミも多数詰め掛け、今まで見えなかった精神障害者の人たちが次々と結集してきたのでした。この障道協が出来たことで、「障害者である前に人間として見てほしい」との精神障害者の要求が際立って多くあり、それを基にして札幌市や道庁との交渉が始まったのです。

そしてその要求の一つに、病院を退院した後「地域で暮らしたい、だから共同住居を作ってほしい」との要求が徐々に広がっていったのでした。



4コマまんが



<編集後記>

涼しくなってきましたが、いかがお過ごしですか。度重なる台風の影響で、7月に予定していた『海水浴』、8月に予定していた『五天山レク(野外バーベキュー)』が中止になりました。これまで悪天候により行事開催が危ぶまれた事は度々ありましたが、中止になったのは初めてではないかと思えます。その代わり・・・『スイカ食べ大会』、『屋外での土曜学級』などを開催しました。赤い羽根共同募金会からの新車両贈呈式は幸い晴天に恵まれ、利用者さんが『20年支援する会で過ごしてきたご褒美』と口にするほど心に残るものになりました。

様々な行事が、皆の生きる糧になっている事を実感した夏でした。(藤原)

《寄付金・寄贈品》

当会の活動に対し、ご支援いただき
厚くお礼を申し上げます。

(順不同・敬称略)

2016. 6. 21～2016. 9. 20

(有)京屋電機、(有)イブ、ニセコ久保農園、野崎、長沼綾子、米澤康子、東海林、渡辺正興、鹿野内留美子、岡崎恵治、大江静子、伊藤勇人、阿部嗣博、ミシマ、高坂瑞世、加藤峰、川島義和、ニチドク事務機(株) 中原久、佐藤めぐみ、田代幸雄、細川徹恵、安彦洋子、小西やえ子、五十嵐満、向山、船藤ユリ子、西川、清原光恵、板谷留美子、鈴木麻代、タミヤ、片石、ハマバヤシ、三浦、ムラハタ、コバヤシ、タカオカ、ミシマ

～ご協力のお願～

『書き損じハガキ、ありませんか?』

いつもご協力いただきありがとうございます。
支援する会では“書き損じハガキ”を集めています。頂いたハガキは、支援する会の財政活動に使わせて頂きます。

引き続き、ご協力宜しくお願い致します。

HSK ころから

昭和48年1月13日第3種郵便物認可

発行 2016年10月10日(毎月10日発行)

HSK通巻番号535号

編集人

住所:札幌市西区八軒8条東5丁目4-18

団体名:特定非営利活動法人(NPO)精神障害者を支援する会

TEL:(011)736-1697

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)

定価 50円(会費に含む)